

Fass animal clinic

フィラリア予防について

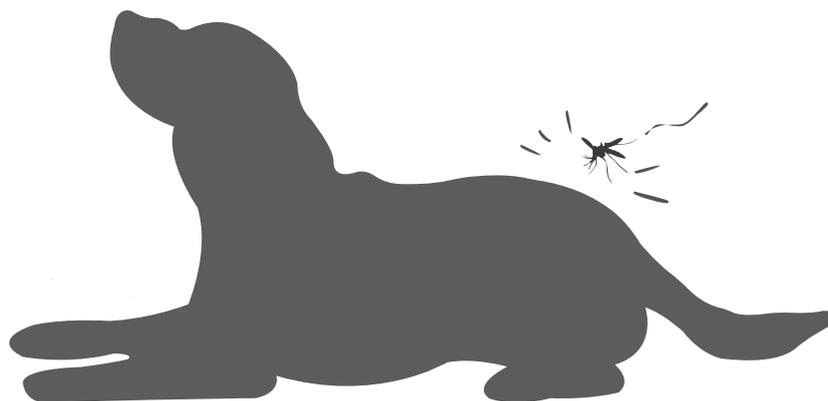
(5月～12月)

for DOG

フィラリア症(犬糸状虫症)とは

犬糸状虫(いぬしじょうちゅう)と呼ばれる、糸のような**寄生虫によって引き起こされる感染症**。**蚊によって媒介され、吸血される際に動物の体内に入り込み、感染し心臓(右心室)・肺へ向かう血管(肺動脈)に寄生します。**

予防の期間は、
犬糸状虫が感染力を持ち始めてから感染力が無くなるまでです。
(平均気温が約17℃以上になると感染力を持ちます。)
12月中でも平均気温が17℃前後になることもあるため、
当院では、**5月~12月**となります。



主な症状

感染初期は無症状のことが多く気づきにくいのですが、
進行していくと、

【腹水・貧血・黄疸・血尿・呼吸困難・失神】
などの症状が現れ、**最悪の場合死に至る場合もあります。**

感染の原因・寄生先

すでにフィラリアに感染している動物の血液を吸った蚊が、
他の動物を吸血する際、犬糸状虫が体内に入り込み感染します。

その後、体内を進み心臓へ到達し

心臓・肺動脈に寄生し、様々な異常を引き起こします。

フィラリアのライフサイクル

フィラリアは、蚊の体内でマイクロフィラリア(L1)から感染力を持つ3期幼虫(L3)へと成長します。

L3を持った蚊が吸血する事で感染し、犬の体内へ侵入
3~10日で4期幼虫(L4)になり、

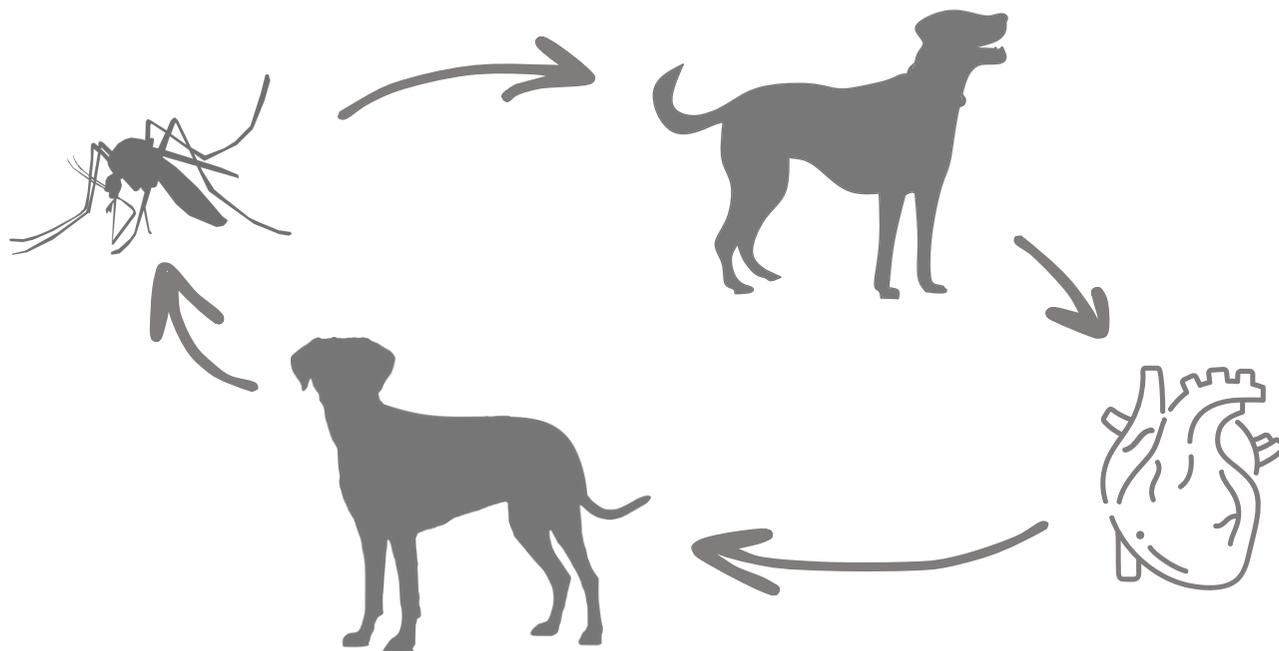
約2ヶ月間は、L4のまま組織内で成長します。

その後、5期幼虫になり

血管内へと侵入し、最終寄生先である

心臓・肺動脈へ移動し成虫となります。

そして、心臓でメスの成虫がL1を産むようになり
その血を吸った蚊にL1が寄生するというサイクルになります。



予防・駆虫について

予防の方法は、予防期間中、1ヶ月に1度薬を飲ませる事。
飲み薬が苦手なワンちゃんの場合は、
塗布薬もございます。お気軽にご相談ください。

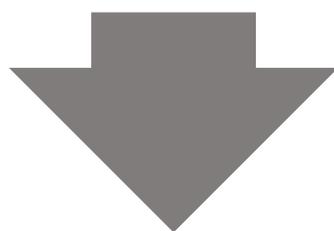
予防薬という名前ですが、、、

フィラリア予防薬と聞くと、1か月間効果が持続するもの？
と感じる方もいらっしゃるかと思いますが、
実際には、飲んだその日しか駆虫の効果はないため、
毎月決めた日に予防薬を使用し、駆虫する事が
フィラリア症の予防に繋がります。



毎年検査を受ける理由

毎年ちゃんと予防薬を飲んでいるのに、なぜ検査が必要なのか？



理論上、期間中しっかり予防薬を飲めていれば
感染・発症することはないのですが、
万が一、見ていない間に吐き出していたり、投薬を忘れていた等
何かしらの理由から感染し、成虫が心臓でマイクロフィラリア(L1)を
産んでしまっていた場合、その状態で予防薬を飲ませると
大量の虫を一気に駆虫してしまい、血管に詰まってしまったり
アナフィラキシーショックが起こり
最悪の場合、命を落としてしまう可能性があります。

上記の理由から、毎年万が一にも感染していないか
しっかり確認をさせてもらった上で、
投薬を開始する事が大切になります。
なお、同じ理由から、余っている予防薬があったとしても
検査前に飲ませないよう、十分ご注意ください。



Thank You

最後までご覧いただき
ありがとうございました